

CRISPR-Cas3 の遺伝子治療応用と 今後の可能性について

開催日時：2021年4月6日（火）14時～15時30分

セミナー形式：Zoom（定員90名、JBAwebページにて受付）

主催：(一財)バイオインダストリー協会 創薬モダリティ基盤研究会

講師：**真下 知士氏**

(東京大学医科学研究所

実験動物研究施設

先進動物ゲノム研究分野 教授)



ゲノム編集は米国や中国を中心として、ものすごいスピードで技術開発や医療応用研究が進められている。演者らは、CRISPR-Cas9とは知財的にも独立した純国産のCRISPR-Cas3を開発することができ、ヒト細胞での効率的で安全性の高いノックアウトやノックインに成功した。CRISPR-Cas3は、狙ったゲノム配列の上流側を大きく削る性質を持ち、オフターゲットへの影響も極めて低いことも明らかにした。さらに、デュシェンヌ型筋ジストロフィー (Duchenne muscular dystrophy: DMD) 遺伝子に変異を持つヒトiPS細胞の遺伝子修復にも成功した。演者が科学技術顧問を務める阪大発ベンチャー「C4U株式会社」では、CRISPR-Cas3を用いたCOVID-19迅速診断法を発表するなど、日本でのこの分野の研究が一気に加速すると期待される。

Zoom参加：JBAホームページよりお申し込みください。

JBA法人会員・JBA個人会員（アカデミア）限定

締切：2021年4月2日（金）12時

お問合せ：(一財)バイオインダストリー協会
(担当：渡邊、岸本、橋本、矢田)